

環 境 水 道 委 員 会 記 録 (No. 33)

1 日 時 令和6年10月30日(水)
午後 1時00分 開会
午後 1時26分 閉会

2 場 所 第5委員会室

3 出席委員(8人)

委 員 長	富士川 厚 子	副 委 員 長	河 田 圭一郎
委 員	吉 村 太 志	委 員	田 仲 常 郎
委 員	井 上 秀 作	委 員	森 本 由 美
委 員	出 口 成 信	委 員	松 尾 和 也

4 欠席委員(1人)

委 員 本 田 忠 弘

5 出席説明員(0人)

6 事務局職員

委 員 係 長 伊 藤 大 志 書 記 岩 瀬 美 咲

7 付議事件及び会議結果

番号	付 議 事 件	会 議 結 果
1	防火防災活動と災害に強いまちづくりについて	所管事務調査報告書取りまとめのため、委員間での討議を行った。
2	SDGs 未来都市にふさわしい環境政策の推進について	

8 会議の経過

○委員長(富士川厚子君) それでは、開会します。

本日は、所管事務の調査を行います。

本日は、取りまとめに向けて委員間討議を行います。報告書に記載すべき取組や執行部への具体的な意見、提案等について発言をお願いします。

それでは、初めに、防火防災活動と災害に強いまちづくりについてを議題とします。

意見、提案等はありませんか。出口委員。

○委員（出口成信君） 先日も商店街の防火訓練とかを視察に行きましたけど、やっぱりあそこに出てきてくれている人というのは、そういう意識が高いんですね。要は、出てこない人、訓練に参加しない人の意識をどうやって高めていただくかということなので、そこをぜひ考えていただきたいなというところが意見です。

あとは、簡易消火装置なんですけど、やっぱり図面の中では、あのときに簡易消火装置の説明で見たビデオでも真上から噴射しているし、図面でも真上にあるんですね。実際に設置しているのは斜めに設置しているので、やっぱりちょっと何か真上にあるべきかなど。真上にあっても、通常中華料理屋でぱっと火力が上がるような場合でもそんなに噴射しないと聞いていたので、やっぱり設置場所というのはもうちょっと真上にあるべきかなどは思いましたけど、それはちょっと私の感想と意見です。

○委員長（富士川厚子君） ほかにございますか。田仲委員。

○委員（田仲常郎君） あの後ラーメン屋に行って僕らも研究をしたと思うんですけど、真上にあるよりも斜めのほうじゃないと、多分真上で行くとかかなり熱量が上がってくるのかなど。

○委員長（富士川厚子君） 出口委員。

○委員（出口成信君） それは、中華料理屋の火が上がるようなところでも、噴射したりしないんだと言ってたんですよ。だから、効果的なのは、やっぱり火がばあっと上がったとき、実際に立て続けに油の火が上がったときに、真上からぼん行ったほうが、消火能力は高いのかなと思ったんですけど、あのときも斜めにあっても、きちんと大丈夫ですよということでしたので、そうなのかとは思いますが。

○委員長（富士川厚子君） 田仲委員。

○委員（田仲常郎君） ほかのところでどこか、何かああいうのって、今まであって本当に消えたんかとかというのはちょっと聞きたいですよ。

○委員長（富士川厚子君） ほかにございませんか。松尾委員。

○委員（松尾和也君） やっぱり現場で配っていただいていたチラシ、あれがやっぱり目を引きますよね。実際の火がばあっと移って、ちょっと怖いなという見た目のチラシでしたけど、やっぱりあれぐらいのインパクトがあったほうが危機感を持っていただくにはちょうどいいんじゃないかなど。今後もああいう方向で続けていただきたいと思います。

○委員長（富士川厚子君） よろしいですか。ほかにございますか。森本委員。

○委員（森本由美君） 防火防災活動と災害に強いまちづくりについてということで、今日は委員間討論ということで、私もちょっと言い残したことはないかなど考えたんですけど、1

つ思うのが、これは今後の課題だと思うんですが、ここにあるのが私の地元の湯川校区のハザードマップなんですけれども、洪水の際に浸水することが想定される場所ということで、危ないところが赤で出ているんですけれども、実は以前この危険地域に想定されているところで農地が売られて、宅地開発が進められたんです。これはちょっと大丈夫かということで、市にお話をしたんですけれども、市が建築許可を出してしまっていて、ただ、浸水地域なので、排水はちゃんとそのときに工事をすることだったんですけれども、その後結局浸水被害が出ました。

今後、これ以上被害を増やさないためには、できるだけ危険地域で家を建てないということも大事ではないかなと思っています。こういう危険地域に宅地開発をするときには、やはりなるべくそこでは家を建てないほうがいいと思いますが、そういうところもしっかり業者のほうに言って対策をすとか、こういうところですよということはしっかり押さえて、市のほうがアドバイスするべきではないかなと思っています。うちの局だけではなくて、他局とも連携でやっていかないと、結局浸水被害って、そういう危険なところに家を建てるから被害が出るわけで、そういうところを避けて建てるという、開発をするということが大切じゃないかなとそのときに思いました。

そのことを思い出しましたので、そういうことも報告には書いていただければいいんじゃないかなと思います。やはり対策をしっかりすることは大事ですけれども、最初からそこに家を建てないというふうにするのも大事ではないかなと思いましたが、一言付け加えさせていただきます。

○委員長（富士川厚子君） ほかにございますか。井上委員。

○委員（井上秀作君） 防火の指導というのはすごくいいことだと思ったんですけども、あのとき、私何回も言っているんですけど、やっぱり子供の頃から防火ということを知っておいてほしいなと思っているんですよね。それで、この間も言いましたけど、日本人というのは、何か水をかけたら火は消えると思っている方が多いんですけど、実際は油なんか水を入れるとぼんとなりますし、そういう映像とかもあのとき見せたじゃないですか。それで、小学校とかだったら、校庭で実際実験できるんですよね。実際に水を入れたらどうなるかという実験もできますので、例えばそういう第3類危険物とか第4類危険物は禁水性物質なので、そんなのに水をかけたらどういうことになるのかということを知っておいてもらいたいというのが1つと、あとはやっぱり子供でもあの程度の消火器だったら使えるはずなので、いざというときにその消火器を使える訓練をするというのは、もう小学生の高学年ぐらいから僕はさせていていいと思っているんですよ。

ですから、防火指導員の方には商店街を回っていただくというのも当然なんですけれども、やっぱり小学生の頃からそういう知識があれば、大人になってからそういうあほなことせんていいから。やっぱり家庭で油に火がついて、一番全焼する原因になるのは、水をぶっかけるこ

となんです。水をぶっかけて火がばあっと散乱して、それで全体が全焼してしまうという形になっているので、そういうことをしなくて済むようになるから、ぜひ私は小学校を回って、防火指導員の方が、子供たちにそういう教育をしてほしいなと思います。これは要望ということでお願いします。

○委員長（富士川厚子君） 吉村委員。

○委員（吉村太志君） 今回、防火防災活動と災害に強いまちづくり、所管事務調査で、私たちも最初は、北九州市自体の問題点ということで、水害の件で門司区とか、今町とか、どういうふうになっているのかということも所管局と協議をしてきました。その中で、行政視察では、京都市、神戸市、そして横浜市と、他都市でもしっかりと防災に対しての意識を向上していく取組をされているということなので、我々北九州市も他都市の取組を見習う部分は見習って、そしてまた、他都市が逆に北九州市を見習うような取組を、今後この所管事務の調査をした中で生かしていければ、今まで2年間やってきたことは非常に実りあるものだと思います。

最後に、先日旦過市場の視察をしましたが、そのときにも私は最後に言わせていただきましたが、今までの環境水道委員会の中でずっと議論してきたことがどんどん生かされて、どんどんそれがまた浸透して行って、しっかり北九州市の安心・安全を守っていけたらいいかなと思います。以上です。

○委員長（富士川厚子君） それでは私から。ここで副委員長と交代します。

（委員長と副委員長が交代）

○副委員長（河田圭一郎君） 富士川委員。

○委員（富士川厚子君） 私もこの2年間、先ほど吉村委員からもありましたけど、神戸市、京都市、横浜市に行政視察に行かせていただき、先日も旦過に行かせていただいて、いろんな取組を見せていただきました。委員会で提案があった、刑罰があるということの啓発についても、今回ちゃんとチラシにさせていただいたり、本当に少しずつ進んでいるなという実感もあるんですけども、やはりこの2年半にわたって旦過で2度火災があって、鳥町食道街、そしてまた、魚町と、密集した小倉の繁華街で4回大規模な火災があったということは、本当にやっぱり抜本的な見直しを行っていかないといけないし、1回あったらもうないかなと思ったけど、やはりそこから3回あっているということは、本当に大きな問題であるんだと思います。本当に延焼が広がる木造密集地域で、今警察と連携して巡回するとか、動画で先日も火災の消火訓練とかも見させていただきましたけれども、自動消火装置とか漏電対策など、設置支援のみでなく本当に義務化していくことも検討していかないといけないのかなとも思いました。

先ほど小学校での指導ということもありましたけど、小倉中央小学校でいつもどんど焼きがあるときは、消防団、消防局が来られて必ず消火訓練を一緒にしていて、あそこで子供たちが、私もさせていただいていますけど、やっぱり実際消火器を持つということが本当に大事ななど。私も何回もさせてもらっているけど、やっぱり毎回不安でありますし、これが実際本当に火が

あれば、もっと不安だろうなと思いました。私も小学校の頃は防災訓練というのが学校であっ
ていたんですけど、今そういうのがあっているかどうか、またちょっと局にも確認して、これ
だけ本当に災害というか火災が多い町になっているので、そういう小さい頃からの意識づけと
いうのは本当に大事ななと思います。

また、災害という部分に関しては、能登半島の地震とか豪雨もありましたけども、今回の南
海トラフの臨時情報も、北九州市がそのエリアに入っているということで、今まで災害が少な
い町ということで、北九州市はやっぱりどこか安心している部分があるのかなと思います。あ
あいう南海トラフの情報が出たとき、じゃあ自分が何をしたいかというのがちょっと私自身
もぱっと思いつかない部分もあったんで、こうやって能登とかにいろいろ派遣されている市の
職員の声とかをもっと市民の方に届けるとか、行っていますという報告はいっぱいあるんです
けど、行って帰って、現地がどうだったかというのを市政だよりとか、ユーチューブでも何で
も今発信する機会はいっぱいあるので、そういう意味では、そういう生の声を聞くというのは
やっぱりとても大事じゃないかなと思いました。

また、本当に必要な備蓄品とか、自分がどこでどういう災害があったときに、いつどこで
あるか分かんないし、じゃあここ議会棟だったら自分はどういう動きをするのかとか、そうい
うことも職場、会社、市役所、学校も含めて、本当に大規模災害に備えた体制をしっかり構築し
ていていただきたい。大体、地域の防災訓練はやっているけど、必ずしも地域にいるときに
災害が起こるということが限らないことを考えると、本当に各個人がいろんなシチュエーショ
ンを考えて、自分の身を守る対策が講じられるようにしていただきたいなということを見
せていただきます。以上です。

○副委員長（河田圭一郎君） ありがとうございます。委員長と交代します。

（副委員長と委員長が交代）

○委員長（富士川厚子君） 森本委員。

○委員（森本由美君） 今、委員長報告に付け加える中身だけを言ったので、感想のほうを言っ
ていないので、所感を言ってもよろしいでしょうか。

私もこの委員会に参加をさせていただいて、いろいろ勉強、もともと意識もあるほうだとは
思うんですが、実際に視察をしたり、市の取組を聞いたりする中で、やっぱり自分が若いとき
にこうと思っていることがそうじゃなくなっていたりとか、もっとアップデートしているとい
うことが分かって、とても勉強になりました。それと、やっぱり日本は災害の多い国なので、
さっき委員長もおっしゃいましたけど、子供でも大人でもお年寄りでも、そのときに何がベ
ストな行動なのかというのを自分で判断して動かないと、待っていたら被害に遭ってしまうとい
う、そういう厳しさがあるので、そこはもう小さいときから学校教育、大人になっても地域や
いろんなところでそういったことを啓発していかないといけないと思います。今たまたま朝ド
ラで大阪、神戸の震災のことをやっていて、私はそのときには日本にいなかったんですけど、

やっぱりそのときの大変なことを疑似体験して、そういう大きい災害があるとずっと後々まで、心にもそうですし、その生活にもとても大きな影響を受けるんだなということがひしひしと感じられました。

災害を避けることは難しいと思いますが、命を守るということ、減災ということを中心に心がけられるような日本人というか、社会の一員としてやるということが今一番大事ではないかなと思っているので、今後ともいろんな啓発はやっているんだけど、やはり委員長がおっしゃったように、私は実際に消火器を持ってみるとか、京都市でやったような水害の体験というのはとても大事ではないかなと思っています。また来年度予算がどうなるか分かりませんが、防災ということではもうちょっと市長にも力を入れていただきたいなと思います。以上です。

○委員長（富士川厚子君） ほかにございませんか。

ほかになければ、次に、SDGs 未来都市にふさわしい環境政策の推進についてを議題とします。

意見、提案等はありませんか。出口委員。

○委員（出口成信君） プラスチックについて、やっぱり今使い捨てプラスチックが製造できないとか、販売したらいけないとかというのがもう世界の流れなんですけど、日本は一律の生産規制に反対とか、各国の事情を踏まえて考慮という、やっぱり産業界の意向で、拡大生産者責任とかプラごみの総量規制に消極的な流れとなっているというところで、やはり北九州市は拡大生産者責任という立場で、排出抑制に積極的な役割を果たしていただきたいと思っています。

○委員長（富士川厚子君） ほかにございませんか。森本委員。

○委員（森本由美君） 環境ってとても私にとっては難しいというか、いろんなことを学ばないと分からないなと思いましたが、今回の2年間の中でちょうど環境基本計画の改定や北九州市生物多様性戦略の改定に立ち会うことになりました。いろんなこれまでの市がやってきたこと、いろんなことをやっているんだなということは分かったんですが、今度またそれをアップデートして、さらにSDGs 2030年に向かって頑張っていかなければならないということを考えると、やはりもうちょっと分かりやすく、そんなに自分事でないと思っている市民に対しても、こういうことなんですよということを漫画とか動画とか分かりやすい形で少しずつ、一遍に全部教えるのではなくて、これのテーマということで少しずつ連続して学習するということが必要ではないかなと思っています。

SDGs 未来都市を表明している北九州市なので、やはり市民の意識の底上げ、それと、私もプラスチックの容器とかプラスチック製品ということでは、日本の社会ではプラスチック製品を使わないと生きていけないという現実があります。それをどういう形でフェードアウトしていくのかということは大きな課題だと思いますし、そういうことをまたみんなで知恵を出し合いながらやっていくということが必要ではないかということを感じています。とても難しい問題ですが、引き続きやっぱり北九州市としては大きな課題として取り組んでいただきたい

し、私も取り組んでいきたいと思っています。

○委員長（富士川厚子君） ほかにございませんか。吉村委員。

○委員（吉村太志君） 北九州市はやっぱり環境未来都市として、全国に先駆けて環境というものをしっかり行政に取り入れてやっていくというもので今までやってきましたが、やはり他都市の勉強をした際とか、北九州市でできていないことも他都市はかなり挑戦をしているというのが正直感じました。我々もしっかりそこは認識をして、執行部と共にもっと環境未来都市としての誇りを持って、これからも未来に向けて本市が環境ビジネスであり環境の政策というものを市民全体が浸透していくようにしていけたらいいかなと思います。

特に、温暖化になったときに、やはり生物多様性、これも視察でも勉強しに行きました。こういうのも北九州市は特に自然が豊かな町でありますので、だけど産業も発展しなければいけない、そういうものはやっぱり環境という一つのキーワードでこれから未来につなげていくことができる取組をやっていただきたいなど。この所管事務調査を経て、またこれから先の環境をテーマにしたものをしっかりやっていただけたらと思います。

まだまだ環境の取組というのは、今回した以上にたくさんあると思いますので、今回やってきたことが、また次にしっかりとつないでいかれることを意見として、終わります。

○委員長（富士川厚子君） ほかにございますか。河田委員。

○委員（河田圭一郎君） SDGs なんですが、2015年から2030年ということで、今10年ほどたちましたけれども、当初は高等学校やらどこもSDGsに取り組んで真剣にやっていましたが、今はもう大分薄らいだと思うんですよ。あと残り5年ですね、北九州市としてどういうふうにやっていくのか、残り5年間の対応について検討してもらいたいと思います。以上です。

○委員長（富士川厚子君） ほかにございませんか。出口委員。

○委員（出口成信君） 北九州市、石炭火力発電がありますけれども、今世界の流れは石炭火力から脱していこうという流れの中で、北九州市では国のCO₂排出よりも1%、少し上の目標でやっているということなんですけど、世界の流れからいえば、今の目標は50%ぐらいしかないというような、そういう指摘もされていますので、ぜひ石炭火力をどうやって削減していくのかということに知恵を絞ってほしいなと思います。以上です。

○委員長（富士川厚子君） ほかにございませんか。

なければ、ここで副委員長と交代します。

（委員長と副委員長が交代）

○副委員長（河田圭一郎君） 富士川委員。

○委員（富士川厚子君） 私も今回環境審議会の一員にも入らせていただいている、今環境基本計画とか生物多様性戦略の改定が進められています。この事業系ごみの減量とか脱炭素の取組、リサイクルが行われているんですけど、SDGs 未来都市として先ほど森本委員も言われていましたけれども、本市はこの環境政策に、また先進的な取組をこれからもずっと続けていく必

要があると思いますので、しっかりそこは頑張っていたいただきたいなと思います。

また、ゼロカーボンシティの実現に向けては、これは市だけではできないと思います。企業、市民一体となって取り組まなければなりませんけれども、本当に市は企業や市民のニーズや取組をしっかり把握して、効果的に取り組めるように伴走支援していただきたいと思いますし、脱炭素先行地域に認定されているメリットを生かしながら、国からの支援もしっかりもらい、エコタウンも立派な施設がありますので、そういうところも活用してもらいたいと思います。なかなか環境は言葉が分かりやすいようで、一般市民からするとすごく分かりにくい部分があると思いますので、ていたんというマスコットキャラクターとか、ていたんのSNSもありますし、イラストとか使って脱炭素の取組が分かりやすいように、もうちょっと市民に周知されることは要望したいと思います。

事業系ごみもこの2年間いろいろな議論をされてきましたけども、何で本当にごみの減量化が必要なのかとか、分別とかに取り組むメリットなども、事業者の皆さんにちゃんと説明をしてもらいたいなと思いますし、小規模事業者に対して費用の負担というのが大きい課題であったと思いますので、そういう部分も配慮されたいなと思います。

最後に、生物多様性については、行政視察で名古屋市生物多様性センターを見に行かせていただいて、本当に専門性の高い職員の方、また、あんなに都会の中で子供たちと一緒にいろんな取組をされているということは、イベントとか冊子とか、やっていることが本当に私たちが行っても楽しかったんで、子供さんにしたらもっと楽しいんだろうなと思いました。本市も響灘ビオトープとか曾根干潟、自然環境がしっかりありますので、そういうのをしっかり生かして、生物多様性の保全に関する先進都市になるように、名古屋市の取組をしっかり参考にさせていただきたいなということを要望いたします。

○副委員長（河田圭一郎君） 委員長と交代します。

（副委員長と委員長が交代）

○委員長（富士川厚子君） ほかにございませんか。

ほかになければ、次回は、本日いただいた意見等を踏まえ、報告書の取りまとめを行いたいと思います。

以上で所管事務の調査を終わります。

本日は以上で閉会します。

環境水道委員会 委員長 富士川 厚子 ㊟
副委員長 河田 圭一郎 ㊟